

コロナ禍で変わった税のイメージ

大田市立大田第一中学校 2年 山根 かおる

私が小学六年生のとき、学校で開かれた租税教室で、「税金」というものがなんなのか学びました。それまで何となく聞いていた税というものが私達の暮らしを豊かにしていて私達は税がなければ生活できないということをこの教室を通して知りました。身の周りの大人が「税が高い、税金をたくさんとられる」とあまり良い顔をして話さないのもそれまで私は税＝面倒臭いもの、嫌なものというイメージをもっていたため、そのイメージを覆された驚きを今でも覚えています。

それからの私は、税ははらえばいいと思っていましたが昨年度あたりから、税の使われ方が気になるようになりました。きっかけはコロナ禍でニュースをたくさん目にしたことです。毎日のニュースで、政治の動きや、コメンテーターの一言を聞くたびに、「なんでみんな、こんなに政治のやり方に文句を言っているのだろう。」と思い、親に聞くと、「みんなが納めた税金を使っているからだよ。」と言われて、そういうことかと納得しました。給付金もアベノマスクもワクチンも税金で支えられていると知ったら、政治と税金のつながりがわかって、払っておしまいだと思っていた税金が、どんな風に使われているかまで知らないといけないなと思いました。

税金の使われ方を知って初めて税を納める意義を見出せるのかもしれませんが。正しく使われているか知ることで、損とか得で税を見なくなるように思います。

二年前、消費税が八%から十%に上がりました。そのときお金を多くとられるようになるのかという、損した気分と、テイクアウトと店内での飲食では税率が違うことに面倒だなと思う気持ちがありました。しかし先日、新聞の記事で税収が過去最高になったと知りました。これは、消費税の引き上げの影響が一番大きいと聞いて、たった二%上げただけで、そんなに変わるのかと驚きました。ちょうど、コロナ禍で国がお金をたくさん使っている感じがしていたので税収が過去最高だと聞いて、安心しました。小学生のときに、税は日常生活の支えになっていることを学んだけれど、今のような予想できない病気の流行や災害などのときにも、私達を救ってくれるんだなと改めて思いました。

納税は義務です。それは小学校の教科書にも書いてありました。でもただ義務だから払うのではなく、何の為に使われて、どんな風に私達の暮らしを支えてくれているかを詳しく知ることで初めて払う意味がわかります。つなげて考えていくと、税金の使い方を決める政治に興味をもったり、それを話し合う人の選挙に行ったりすることも、全てが自分達の手で社会を創っているという意識につながっていると思います。これからは、もっと税金をプラスのイメージでみていきたいです。